

講義名	国語学			授業形態	
担当教員	松繁 弘之	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング・コード	

主 題 と 概 要					
主題は日本語の音声、文字、語彙、文法についての概説である。日本語にはどのような仕組みがあり、その仕組みがどのように変化してきたのかについて概観する。					
到達目標					
到達目標は、日本語を分析するための用語を理解し、それを用いて日本語を説明することができるようになることである。例えば、敬語などの言葉遣いについても、正しいものどそうでないものの区別できるようにするなど。					
提出課題					
提出課題 提出課題は毎回の授業で用いるワークシート（授業の最後に提出）である。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法					
ワークシートに質問を設けるので、理解できない点や疑問となる点について、授業で解説する。					
評価の基準					
ワークシート（40％）と期末試験（60％）とによって評価し、60点以上で単位を認める。期末試験では、基礎的な知識が習得できているかについて問う問題を出題する。					
履修にあたっての注意・助言他					
日本語研究の入門として音声論、文字論、語彙論、文法論など、諸分野の用語を理解し、記憶することが、学習の大半を占める。そのため、日本語について興味や関心のある学生や日本語教師を目指す学生に受講してもらいたい。					
教科書					
.図解日本語.		沖森卓也・木村義之・陳力衛・山本真吾	三省堂	2000	9784385362427
参考図書					
.国語学.		原島裕	東京大学出版会	2500	9784130090

その他		
授業中に適宜資料を配布する。		
授業計画		
1.ガイダンス、総記 2.音声・音韻： 音声、母音と子音、音節 3.音声・音韻： アクセント、イントネーションとプロミネンス 4.文字・表記： 漢字、仮名 5.文字・表記： ローマ字、現代語の表記法 6.語彙： 語の起源、語彙の増減と歴史 7.語彙： 語の起源、語彙の増減と歴史 8.文法： 文とその構造、品詞 9.文法： 自立語、付属語 10.文法： 助詞、アスペクト、モダリティ 11.文法： 授受表現、さまざまな助動詞 12.現代生活と日本語： 敬語表現の分類 13.現代生活と日本語： 敬語の表現形式 14.現代生活と日本語： 注意すべき敬語 15.現代生活と日本語： 位相語		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
授業は、教科書に沿って進めるので、教科書を利用して予習・復習をすること。授業に対応する章を読み、疑問点や問題点となる箇所を下線を引いておく。予習・復習は2時間程度すること。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
本講義は、本大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力に加えられた、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」となるための基礎能力と関連する。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
備考		